

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス unico志免		公表日		2025年 4月 25日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		専門支援計画書を確認し支援に取り組んでいる。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者様からの意見に関してはご意見があった際に教室内で協議し工夫・改善し対応している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		運営MTGや個別に面談する機会を設け業務事・人間関係・プライベート事話す機会を設け効率よく、健全に業務が遂行できるよう工夫している。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		教室内で月に一度の頻度で研修を実施しています。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。				
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○			
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		必要に応じて相談支援員さんを通じて、ご利用されていた事業所へお子様の情報共有をいただく機会を作ることや、同じunicoの児童発達支援教室との連携を図ることがある。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○	事例が現状ありません。（必要に応じて（発達検査時等）情報を資料にてお渡し等の対応はできるようにしている）	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○			活動場所によっては交流があることもありますが、療育のご利用自体を知られたくない方もいらっしゃる為、姉妹教室との交流以上に地域の団体様との交流は出来ておりません。

	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。		○		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時に様子や支援の情報共有を行ったり、活動時の子どもたちの表情などがわかるようアプリを用いて写真等の配信を行っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		保護者より面談希望のご連絡があった場合や新たな課題が見つかった場合・変化があった場合などゆっくりお話しできるように面談は随時行っている	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○		サービスの利用を知られたくないご家庭もあり、保護者会等は実施でいていないものの、お別れ会等のワークショップに参加希望のご家庭は参加していただくことがある。今後も機会を増やしていきたいと考えている。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
非常時	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		ワークショップの活動の中で行事ごとによっては地域の方をお願いをし、ハロウィンウォーク等で近くの交番やパン屋などに訪問し交流する機会がある。	
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		年に2回避難訓練を実施し、実際の避難場所へ避難するまでを行っている。また、ワークショップにも組み込み防災グッズの使い方などを職員とともに確認 備蓄に関しても定期的に期限を確認し購入している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			予防接種の確認まではできていない
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○	医師の指示書に基づいて食べ物を提供した事例が現状ありません（アレルギーがある場合は食べないようにしている為）。	

時 等 の 対 応	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットや事故が起こった場合にはその日のうちに緊急MTGを開き、振り返り・再発防止のために協議を行っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		年に1回虐待防止委員会を実施をしている。 日頃の朝礼・終礼時にもリフレクションを行い支援の振り返りを行っている	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス unico志免			
○保護者評価実施期間	2025年 2月 12日		～	2025年 3月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	43名	(回答者数)	18名
○従業者評価実施期間	2025年 2月 12日		～	2025年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数)	4名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 14日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子さま一人ひとりのニーズに応じた活動環境の提供	・アクティブに身体を動かせるスペースや集中して活動に取り組めるお部屋、休息が取れるリラックスマールームなど、活動内容や状態に応じて過ごす場所を自分で選択できるよう、多様なスペースを設計しています。	・活動内容に応じた環境の活用方法の紹介や戸外での活動機会を提案しさらなる充実を図ります
2	多様な体験や学びにつながるワークショップ活動の実践	・お子さま一人ひとりのやってみようの気持ち大切に様々な発見や学びにつながる機会提供を行っています ・子どもたちの意欲や興味を引き出し、自分自身で考え選択していけるよう、コーチングをベースにした関わり方を大切にしています	・子どもたち自身が主体的に活動を選択しさらなる多様な体験の機会を得られるワークショップを企画し提供します
3	お子さま一人ひとりが安心して過ごせる居場所づくり	・大人が子どもをコントロールしようとするのではなく、一人ひとりの気持ちに寄り添い、一緒に考え、自分で選択していくことを大切にしています	・研修や日々の振り返りを通して「子どもが育つ」「対等に」というスタンスを職員間で揃えさらなる支援の質向上を図ります ・子どもたち一人ひとりがunicoに行くことがより楽しみになるような新しい発見が広がる機会提供を工夫し実践してまいります

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	お子様やご家庭のニーズに応じた支援の質向上	・小集団の中で多様な機会提供や自分で選択することができるようコーチングをベースにした支援を日々行っておりますが、より一人ひとりのニーズに沿った支援の工夫が必要だと考えております	・日々子どもたちの様子や支援について職員間での情報共有と振り返りをより細やかに行います ・定期的な研修や振り返りを通して、支援の質の向上につなげてまいります
2	療育効果を感じていただけるような保護者様との情報共有の徹底	・適宜面談やお電話等で出来事の共有や相談援助を行っておりますが、よりお子様の成長や療育効果を感じていただけるような情報共有が必要だと考えております	・定期的な面談だけでなく日々の出来事の共有に加え、具体的にどのような支援を行いどのような姿が見られているのか情報共有を行ってまいります

3	保護者様同士のつながりを感じていただけるような 機会の充実	・関係機関やご家族さま同士等、周囲とのつながり を実感できるような連携、機会提供の検討が必要だ と考えております	・各ご家庭のご要望を伺いながら、必要に応じて関 係機関を含む会議への参加や提案を行います。 ・保護者さま同士がつながりを感じられるような機 会提供や日頃の連携の工夫について検討します。
---	----------------------------------	--	---